



阿蘇温泉観光旅館協同組合
青年部長

永田 祐介 (33歳)

旅館 蘇山郷 専務取締役

趣味：ゴルフ A型 さそり座

座右の銘：
仕事できる人間は
遊び方も半端じゃない！



はじめまして、阿蘇温泉観光旅館協同組合の青年部長を仰せつかっております永田と申します。
8年前に阿蘇に帰ってきて以来、家業の旅館を営みながら、組合活動に携わっています。長引く景気の低迷もあり近年、観光産業としてまれに見る厳しさを感じております。その要因としてデフレによる消費単価の下落もあります。この阿蘇に関しては団体旅行の減少、とりわけ修学旅行客の激減が目立っています。旅館組合総会で使った資料をもとにすると、10年前

その宿なりの得意分野を生かした集客で グローバルな温泉地 目指す

約83万人だった宿泊者数が昨年は65万人と18万人ほど減っています。これに団体旅行の目安として修学旅行客数の変化を見ると10年前で19万人だったのが昨年は10万人と9万人減っています。減少した宿泊数の半数が学生という結果ですが、これからの少子高齢化社会の中で修学旅行が今後増えていく可能性は皆無なので、減った分を取り戻すため、他の分野を伸ばしていかなくてはなりません。

そのために地域おこしや街づくりに取り組んでいます。由布院で30年、黒川温泉で15年かかったと言われているように街づくりというのは、今日明日の取り組みですぐに結果が出るものではないです。これらを根気よく進めて行く一方、近年「短期間で即効性のあるものを」と組合で誘致に力を入れているのが「合宿の里作り」です。阿蘇市にはあびか陸上競技場やアゼリアのプール・トレーニングルーム、またクロスカントリーコースや体育館等の設備も揃っています。夏場は市内よりも3〜5度気温が低いこともあり、絶好のコンディションのもとスポーツが出来る場所に目を付けました。そこです。まずは大会を開催し、たくさんチームに宿泊してもらい、あとは阿蘇の持つ立地のよさをどうアピールしつつ個々でチームの合宿に来てもらうやり方。

今や阿蘇市は20年以上続いている剣道やバスケットの練成大会を筆頭にサッカーや陸上、バレーに野球、弓道や卓球と様々なスポーツの合宿地となりつつあります。

その中でも剣道は今年の教職員全国大会など全3回の大会で延べ5千人以上の宿泊があり、冬場でもできるバスケットやバレー等の宿泊も年間2千人を越えます。さらにサッカーが短期間でのフェスティバル方式を数多く行い、今年も7千人以上の宿泊が見込まれています。また長期間の合宿も陸上の長距離を初めとし年々増えています。

話題の選手がぞくぞく阿蘇市へ



8月の世界陸上マラソンで、日本人トップでゴールした京セラの原裕美選手もヘルシンキから帰り、阿蘇市で合宿した。阿蘇市は5回目。(写真は8月22日にアゼリア21にて)

ワコールの福土加代子選手も日本選手権に向けた合宿のため、5月18日から阿蘇市に来ていました。

実業団にいたっては九州内の男女すべてのチームに加え全国からも合わせると30チーム以上来ています。それらのチームがすべて1週間以上長ければ2週間以上も滞在しますので、相当数の宿泊につながっていることになりました。それに世界陸上やオリンピックに出てくる選手も合宿に来ていまして「TVで見た顔が目の前を走っていた」なんてことも内牧の街中ではそう珍しい事ではないと思います。今後、益々旅の多様化が進んできて外国人や日帰り客の誘致も含め、様々な取り組みを行っていかねばならない中で、今回は合宿に対しての取り組みを紹介させて頂きました。

今後も各施設がその宿なりの得意分野を持ち、それぞれに合った集客することによって、単一化された雰囲気のない温泉地が出来る気がしています。これからの皆様に様々な分野でお世話になる事と思いますが「観光客が落とす外貨で観光地は潤うもの」と言うことをご理解頂いた上でこれまでも変わらぬご支援をよろしくお願い致します。